

町田を幸せにするスタジアムとスタジアムビジネスの研究

桜美林大学 澤井ゼミ

○吉田梨香
古木滉亮

平井佑樹
鶴飼菜美

柏崎美里
奥津直樹

高杉宏樹

1. 研究の背景

現代日本におけるサッカーの発展の背景は、1993年に発足したＪリーグがきっかけとなっている。そのＪリーグの活動方針の中でスタジアムについて次のように述べられている。「自治体・ファン・サポーターの理解・協力を仰ぎながら、世界に誇れる、安全で快適なスタジアム環境を確立していきます」。このように、「地域貢献」を掲げるＪリーグの活動にとって「スタジアム」は重要なテーマとして位置づけられている。そこで本研究では、本学が所在する町のクラブであるゼルビアのスタジアムについて考えることで、地域や社会にスポーツが果たす役割を考えていきたいと思う。

そこで本研究の目的は、本学が所在する町のクラブである町田ゼルビアのスタジアムについて、特に地域社会との関わりという観点から情報収集し、問題点を見つけ、その改善案を提示することとした。

2. 研究方法

2-1. Ｊリーグ、プロ野球球団のスタジアム調査

Ｊリーグクラブおよびプロ野球球団のホームスタジアムについて、公式ホームページなどから情報収集し、所有者や管理者、アクセス、収容人数、競技場の種類など情報収集して集計した。

2-2. ガンバ大阪新スタジアムに関する市民サポーターの意見調査

年に建設が予定されているガンバ大阪のホームスタジアムについて、インターネットにおいて寄せられたサポーターや市民からの意見を集約して分析を行った。

2-3. スタジアムフィールドワーク・・・実際にスタジアムへ行き、アクセスや設備、ホスピタリティの観点から調査した。調査対象と日時は次の通りである。

町田市陸上競技場（2012年7月8日）、日立柏サッカー場（2012年8月11日、10月6日）、日産スタジアム（2012年9月15日）、味の素スタジアム（2012年9月29日）QVCマリンフィールド（2012年9月14日）

2-4. インタビュー・・・クラブ、自治体、サポーター、市民の視点でスタジアムについてどう考えるかを聞くために、下記の方々にお話しをお伺いした。

- (ア) ゼルビア支える会・代表石黒氏以下3名、2012年9月13日
- (イ) 町田ゼルビア株主A氏（町田市民、自営業）；2012年10月3日
- (ウ) 町田ゼルビアGM唐井直氏；2012年10月4日
- (エ) 町田市スポーツ振興課；2012年10月12日（予定）

3 結果

3-1. Ｊリーグとプロ野球のスタジアム調査

3-1-1. Ｊリーグ、プロ野球球団のスタジアム調査

			所属リーグ			合計
			J1	J2	プロ野球	
競技場の種類	専用競技場	度数	6	1	7	14
		所属リーグの%	31.6%	4.8%	58.3%	26.9%
	ドーム球場	度数	0	0	5	5
		所属リーグの%	0.0%	0.0%	41.7%	9.6%
	球技場	度数	6	5	0	11
		所属リーグの%	31.6%	23.8%	0.0%	21.2%
	陸上競技場	度数	7	15	0	22
		所属リーグの%	36.8%	71.4%	0.0%	42.3%
合計		度数	19	21	12	52
		所属リーグの%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図1 所属リーグとスタジアムの種類

			所属リーグ			合計	
			J1	J2	プロ野球		
駅から徒歩で(分)	5分以内	度数	10	3	8	21	
		所属リーグの%	52.6%	14.3%	66.7%	40.4%	
	6~19分	度数	2	3	4	9	
		所属リーグの%	10.5%	14.3%	33.3%	17.3%	
	20分以上	度数	4	4	0	8	
		所属リーグの%	21.1%	19.0%	0.0%	15.4%	
	バス	度数	3	11	0	14	
		所属リーグの%	15.8%	52.4%	0.0%	26.9%	
	合計		度数	19	21	12	52
			所属リーグの%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図2 所属リーグとスタジアムのアクセス

J2のクラブのスタジアムは陸上競技場との兼用が多く、アクセスもよくないことがわかる。経営的にもかなり不利になっていると考えられる。

3-2. ガンバ大阪新スタジアムに関する市民・サポーターの意見調査

- (1) サポーターや市民のためのスタジアム・・・4万収容でなくていいから傾斜をつけてほしい、席の一層化、ホーム側だけでも屋根付きに
- (2) の高機能化・・・座席を広く、前後も人が通りやすい幅、座席のドリンクホルダーの設置、座席の下から温風が出るなどの空調機能、VIPルーム、パナソニックのハイテクを凝らした設備、見学会を開いてほしいなど
- (3) アクセス・・・駐車場を増やしてほしい、駅をつくってほしい

3-3. スタジアムフィールドワーク

- (1) 町田市陸上競技場（野津田競技場）2012年7月8日
 - ・ 公園の中に浮かび上がるスタジアムという雰囲気。バス16分+歩き10分だがもったかかる印象。バス停から高低差ありきつい。街頭が少なく日が暮れると道が暗くて怖い。陸上トラックがあるためピッチまで距離があり座席位置も低いいため試合は観にくく臨場感に乏しい。相手サポーターの声援もあまり聞こえない。ボランティアの方々の対応がとてもよい。公園の中にあるので子どもの遊び場にはよい。実際親子連れが多かった印象。
- (2) 日立柏サッカー場；2012年8月11日、10月6日
 - ・ サッカー専用競技場で座席も傾斜があり観やすい。向かい側の席までよく見え、臨場感がある。アメニティもよくスタジアム全体もきれい。あとは屋根があればサポーターの声援が反響してさらに臨場感が高まると思う。柏駅から実質30分かかり、レイソルのフラッグも掲げられていたが少な目であまり「雰囲気」はなかったと思う。ホームサポーター席で観戦したがサポーターの方が「一緒に応援しましょう」と声をかけ

られた。熱心で親切な方々という印象。ユニフォームを持っていない人にはサポーターの方々が黄色のビニールのビブスを配っていてそれを着用し、スタンドを黄色で染める一体感を出そうとしていた。

(3) 日産スタジアム；2012年9月15日

- ・ 屋根があるせいか大型ビジョンの音響がとて大きく迫力があつた（これは同じく屋根のある味の素スタジアムも同様だった。屋根の効果を実感した）。また、サポーターの応援もよく聞こえて全体的に盛り上がってるように感じた。2階席は思っていた以上に観やすいと感じたが、1階席はピッチが遠く反対側にボールが行ってしまうと何をしているのか見えづらい。

(4) QVC マリンフィールド；2012年9月14日

- ・ 試合前後に球場周辺でイベントが開催されており、またミュージアムなど付帯施設も従事遅延して試合以外でも楽しめるスタジアム。

3-5. インタビュー

(1) ゼルビア支える会；2012年9月13日

「行くたびにお祭りをやっているよ！というスタジアムになってほしい」「女性や子供も来やすいように、サポーター、ボランティアの気遣い、気配りをし雰囲気作りに力を入れている」「ボランティアスタッフのお客様への声かけや案内板が見やすいように工夫したり、対戦クラブのサポーターにも町田を好きになってほしいという姿勢で（ボランティアを）やっている」「子供が多いので選手によるサッカー教室を開催している。雰囲気としては良いスタジアムだと思う。町田の人の気質がいいと思う」「サッカー専用、2万人程度のコンパクトなスタジアムが理想」「練習場がいつでも見学できる、日常的に身近なスタジアム、文化・カルチャースクールなどがあってもいい。そこにあつてよかったなと思えるスタジアムがいい」

(2) 町田ゼルビア株主S氏；

「スタジアムは市民の「日常生活」とともにあつてほしい」「ショッピングモールなど商業施設もあり試合の時だけでなく日常的に活気づいている。「日常としてのスタジアム」「単なるスポーツのための箱ではなく、街の特徴や視点を入れてほしい」「小さい子がいる方はやはり公園が隣接していることも重要」「災害避難場所になったり空き時間も過ごせる商業施設があつたり、リゾートテイストではなく日常の先にスタジアムがある・毎日、毎週通う施設としても使えるとよい」「都市郊外の均衡化による、地元からあまり出ない人たちを取り込めるスタジアム」

(3) 町田ゼルビア GM 唐井直氏；2012年10月4日

「まずは野津田を使い倒すこと、野津田を盛り上げること、それがシティセールスになるようにすることが地道だがよりよいスタジアムにする一番の近道」「よいスタジアムはその雰囲気コンテンツとして売り物になるようなスタジアム」「町田市陸上競技場・・・外側はディズニーランド（ゼルビーランド）、中はオールドトラフォード・・・試合だけでなくその場を半日楽しんでもらうイベントにしたい」「ゼルビアのコンセプト・・・隣のお兄さんが野津田で戦っている、町のヒーロー、ホームタウン活動が大事、選手たちも街を普通に歩いている身近な存在」

(4) 町田市スポーツ振興課；2012年10月12日（予定）

4. 考察

4-1. インタビューイの意見にみる町田市にとって理想のスタジアムとは？

インタビューイの意見からみえるスタジアムのハード面の理想とは、駅に近くサッカー専用の収容が20,000人程度のコンパクトなスタジアムである。スタジアムのソフト面では、老若男女が楽しめるバリアフリー設計でアメニティも充実していることが。また、スポーツとしての箱だけではなく、日常的に使用できる総合型地域スポーツ施設やショッピングセンターなどの複合施設が必要が求められる。そして、子どもが安心して遊べる公園も併設されていることが望ましい。

4-2. 町田市陸上競技場の改善策

インタビューイの意見として、ゼルビアが昇格する際に市内で使えるのが町田市陸上競技場「しか」なく、またすでに野津田に25億円かけており、現在の集客と成績からみても当面は現在のスタジアムをどうしていくかが課題であるとしていた。他のスタジアムの観察やインタビューをまとめて検討した結果、次のような提案をしたい。

まず、野津田の強みである自然を生かして、サッカーを観るためだけではなく子どもたちが遊べたり学べたりするために広場の整備や新しい遊具を設置する。そして、弱みであるアクセス面については、スタジアム直行バスの増便、タクシー会社と提携してスタジアムまでのタクシー料金を一定にするなどのサービスが考えられる。また、今以上の臨場感を出すために、陸上トラック内に移動式の席を設けることを検討すべきと思われる。

4-3. 町田市にとって理想のスタジアムとは？

現在の町田市陸上競技場をどう使うかを考える一方で、将来ゼルビアがJ1に昇格した際にはJリーグの基準として1万5千人のスタジアムが必要になる。その際には、改修後に1満席となる現在のスタジアムをさらに改修するのか、新しいスタジアムを建設するのかが検討されることになる。その際に考えるべきスタジアムの条件について、上記の調査の結果を踏まえて次のように考えた。

私たちが考える理想のスタジアムは大きく分けて3つのテーマがある。

(1) アクセスがいいこと

市民の「日常生活」に一体化したスタジアムとしてアクセスがいいことは重要。駅から徒歩15分以内が理想。交通機関のハブになっている。電車、バス、車など多様なライフスタイルの市民がアクセスできること。

(2) 特に子供をターゲットとした複合施設であること

託児所、ショッピングモール、カルチャーセンター、カラオケやボーリング場など、市民の「日常生活」に密着したスタジアムを目指すこと。

(3) 臨場感のあるスタジアム

サッカー専用競技場、コンパクトなスタジアム、屋根付き、ピッチとの距離が近いこと

5. 参考資料

- 「Jリーグ 百年構想 熱狂のスタジアム」Jリーグ公式ホームページ、
<http://www.j-league.or.jp/100year/stadium/>
- Jリーグクラブ経営状況、
<http://www.j-league.or.jp/aboutj/document/jclub/management.html>

以上